

平成 26 年度（2014 年度）神戸大学大学院国際文化学研究科博士課程（前期課程）
外国語教育系領域 外国語教育 システム論コース 入学試験問題
外国語教育系領域 外国語教育 コンテンツ論コース 入学試験問題
基礎科目 日本語

問題Ⅰ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

（出典：池上嘉彦（1984）『記号論への招待』 pp. 2-4. 東京：岩波書店）

- 問 1 下線部(1)～(4)の語句の意味を本文に即して日本語で説明しなさい。
問 2 下線部(A)の「こういうこと」とは、どのようなことかを日本語で説明しなさい。
問 3 本文で述べられている「記号」と「符号」の相違を日本語で説明しなさい。
問 4 下線部(B)はどのようなことかを、日本語で説明しなさい。

問題Ⅱ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

（出典：桑原武夫（1963）『文学入門』 pp. 7-9. 東京：岩波書店）

- 問 1 空所（ A ）と（ B ）には同じことばが入ります。もっとも適当なものを下から一つ選び、記号で答えなさい。
ア 展開 イ 向上 ウ 拡散 エ 集中
問 2 空所（ C ）に入れるべきもっとも適当なことばを下から一つ選び、記号で答えなさい。
ア 圧政 イ 育成 ウ 改正 エ 強制
問 3 下線部(1)の「強み」の内容を日本語で具体的に説明しなさい。
問 4 下線部(2)の「社会的責務」の内容を日本語で具体的に説明しなさい。
問 5 下線部(3)、「手合せ」の意味としてもっとも適当なものを下から一つ選び、記号で答えなさい。
ア 手を使って練習すること
イ やり方を学ぶこと
ウ 勝ち負けを争うこと
エ 試合の前に握手すること
問 6 下線部(4)、「茶番」の意味としてもっとも適当なものを下から一つ選び、記号で答えなさい。
ア お茶を入れる当番をすること
イ 行動の自由を奪うこと

ウ 親切そうに見えて、実は意地悪なふるまい

エ ばかりしい、底の見えすいたふるまい

問 7 下線部(5)にある、「おのずとしみ出るようなものであって、外から塗りつけることのできないものなのである」とは、文学についてどのようなことを言おうとしていると考えられるか。文脈に即し、句読点を含む 80 字以内の日本語で答えなさい。

問 8 この文章は、1950 年（昭和 25 年）に初めて発表されたものです。従って、それから 60 年以上経った現在の日本の状況と、必ずしも一致しない内容の記述もあります。たとえばどんなことがそれに当たるでしょうか。日本語で簡潔にまとめなさい。

問題 III

「私が出会った印象に残る先生」という題名で、句読点を含む 800 字以内のエッセイを日本語で書きなさい。取り上げる先生は一人でも複数でもかまいません。